

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 479

政策体系	24	事業分類	ソフト事業	所管部局	美山支所 産業建設課
会計	一般会計	科目	7. 商工費 - 1. 商工費 - 3. 観光振 現年		
事業名	都市と農村との交流事業				
細事業名	都市と農村との交流事業				
評価表作成者				美山支所 産業建設課	大澤忠和

1. 事業の概要

全国の旅行会社と提携し、修学旅行と農村交流を組み合わせた独特のプランを提供して、修学旅行生を受け入れることで地域の活性化を図るため、観光協会を通じて活動を支援する。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

地域特性を活かした田舎体験で、都市と農村との交流を推進することで地域経済の活性化と、交流人口増加による地域振興を目標とする。

② 事業を実施する必要性

市内の観光入込客は、京阪神等の近場から、日帰りで行われる中高年が中心で、観光消費額に結びつきにくい現状がある。そこで新たな客層の開拓として、遠方から宿泊を伴う、若者を対象とした誘客としてここ数年修学旅行に力を入れている。ここ数年修学旅行を遊びの時間としてではなく、普段できない経験、見られないものを見るなど学習の一環として利用されることが増えてきており、観光と体験の両方が求められてきている。本市は全国的に修学旅行を受け入れる京都市から移動可能な距離にありながら全く違う雰囲気を有している。「京都市内で観光」「南丹市で田舎体験」とセットでの誘致がしやすく、また、競合する地域も無い。修学旅行誘致により「田舎体験料金」「宿泊」「食事」「特産品販売」など、直接的な地域への経済効果なども大きく、都市と農村との交流事業の必要性は高い。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	827	568	505	253	212	256	256
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	0	0	0	0
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	827	568	505	253	212	256
職員等の従事人員	人/年	—	0.30	0.17	0.42			
人件費	千円	—	1,739	1,105	2,868			
事業費総額	千円	—	2,307	1,610	3,120			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

都市農村交流事務消耗品	5,862円
都市農村交流案内看板代	190,575円
都市農村交流PR物品代他	56,117円

5. 事業結果の概要

修学旅行受入 3校

6. 活動の詳細

修学旅行受入事業		
修学旅行 宿泊及び農村体験コース	6月15.16日 9月28.29日	99名（東京都） 87名（東京都）
修学旅行 農村体験コース	3月31日	135名（千葉県）

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

東日本大震災の影響で京都への修学旅行のニーズが今まで以上に高まることが推測される。京都市内から移動可能な距離に位置する南丹市美山地域に受け入れ希望が増えることが考えられ、安定した受け入れ体制の整備が必要である。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

都市と農村との交流事業の一環として、田舎体験型の修学旅行は、地元の経済効果と活性化に大きく寄与している。

美山町は国内の主要観光地の京都市から近くにあることから、関東・北信越の都市部の中学校の修学旅行先としてニーズが高い状況にあり、今後、事業拡大をしていくために受け入れの組織体制の確立が必要である。

■平成21年度の所属長評価

①有効性・効率性を向上させるため、担当職員と議論を重ねた点

都市と農村との交流事業の一環としての田舎体験型の修学旅行は、地元の経済波及効果と活性化に大きく寄与しており、体験メニューも幅広く検討を加えた。

②当該事業のアピール事項

ここ数年、年間5校・約500人の修学旅行生を受け入れ、地元への経済波及効果は約1千万円となっており、地元住民との交流による活性化も図れている。

③反省点、今後の展開・方向性等

修学旅行の事業拡大を行うために、受け入れの組織体制の確立が必要である。